

主要損害保険会社の令和6年3月期決算の概要

1. 損益の状況（連結）

- 正味収入保険料は、国内事業で火災保険における料率改定前（令和4年10月）の契約増加の反動があったものの、海外保険事業の好調に円安が重なったこと等により、前年に比べ増収。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、海外事業を中心に、資産運用損益の増加や新型コロナウイルス感染症に関する損失の減少等により、前年に比べ増益。

（単位：億円）

	令和4年3月期	令和5年3月期	令和6年3月期	前年比
正味収入保険料	107,125	120,739	127,771	7,031
経常利益	12,734	8,359	17,470	9,111
特別損益	▲ 314	307	166	▲ 140
親会社株主に帰属する当期純利益	9,081	6,120	14,811	8,691

2. 健全性の状況（単体）

- ソルベンシー・マージン比率は、株価上昇に伴い、その他有価証券評価差額金が増加したことなどから、前年度末に比べ16.6%ポイント上昇。

（単位：%）

	令和4年3月期	令和5年3月期	令和6年3月期	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	764.0	742.7	759.3	16.6Pt

（注）「連結」は、東京海上HD、MS&AD HD、SOMPO HDの3グループを集計。なお、国際財務報告基準（IFRS）を適用している海外連結子会社等において、IFRS第17号「保険契約」を令和6年3月期の期首から適用。令和5年3月期については遡及適用後の数値。

「単体」は、東京海上日動、三井住友海上、あいおいニッセイ同和及び損保ジャパンの4社を集計。